日本活断層学会 2025 年度秋季学術大会開催報告

日本活断層学会 2025 年度秋季学術大会実行委員会

爽やかな秋晴れの 11 月 15 日（土）・16 日（日）に，日本活断層学会 2025 年度秋季学術大会を東京都八王子市にある東京都立大学南大沢キャンパスにて開催した。15 日（土）午後から 16 日（日）午前に開催した一般研究発表（口頭・ポスター）には，のべ 183 名（15 日 104 名，16 日 79 名）に参加いただいた。15 日（土）夕刻には 61 名（会員 38 名，非会員 6 名，学生 16 名）に参加いただき同キャンパス生協食堂にて学術交流会を開催した。16 日（日）の一般研究発表後には 2025 年度日本活断層学会表彰式を執り行った。16 日（日）正午からは展示企業によるキャリア懇談会を開催し，その後 16 日（日）午後からは一般の方を含む約 115 名の方に参加いただき，一般公開シンポジウム「地形・地質の編年・年代学の最前線―大地が動いた“その時”に迫る―」を開催した。

◇　◇　◇

15 日（土）13 時に堤　浩之会長による開会の挨拶が行われ，16 日（日）午前の部とあわせて 8 件の口頭発表，17 件のポスター発表が行われた。企業展示は 6 件。口頭発表では，ユニークな地形・地質調査やシミュレーション，物理探査や地震動計測など，さまざまな分野からの研究成果が紹介された。ポスター発表では多くの参加者により，活発な議論が行われた。ポスター発表コアタイムの後の学術交流会では，鈴木毅彦大会実行委員長の挨拶に続いて，平田和彦氏（(株）創建）より乾杯のご発声をいただき，展示企業による自社 PR，学生・院生による自己紹介，論文賞受賞者・内閣総理大臣表彰者の紹介，受賞者コメントと続き，歓談は大いに盛り上がりをみせた。最後は，2026 年度大会実行委員会から岡田真介会員の挨拶，2025 年度行事委員長・楮原京子会員の締めで散会した。

16 日（日）の 2025 年度日本活断層学会表彰式では，学会賞と論文賞の表彰が行われ，その後，遠田晋次副会長の挨拶をもって秋季学術大会を閉会した。

2025 年度の学会賞・論文賞ならびに若手優秀講演賞は次の通りである。

〇学会賞（敬称略）

宇宙航空研究開発機構（JAXA）

〇論文賞（敬称略）

堤 浩之・杉戸信彦・木村治夫・川嶋渉造・中西利典・郡谷順英・谷口 薫・小俣雅志

「奈良盆地東縁断層帯の帯解断層と天理撓曲の活動履歴と変位速度」（活断層研究 58 号掲載）

〇若手優秀講演賞（敬称略）

吉田優駿　「四国地方中東部の山地部における綱附森断層の断層露頭」（共著者：石村大輔）

赤井　東　「能登半島北部沿岸吉浦周辺の低位段丘における GPR を用いた地下構造の推定と OSL 年代測定」（共著者：安藤亮輔・宍倉正展・田村　亨・伊藤一充・安江健一・橋下怜旺）

廣瀬健大朗　「阿寺断層帯中部のステップ部における断層の変位と活動時期に関する研究」（共著者：安江健一・石山達也・廣内大助）

16 日（日）午後には，シンポジウム「地形・地質の編年・年代学の最前線―大地が動いた“その時”に迫る―」が一般公開で行われた。堤　浩之会長の開催挨拶の後，大会実行委員の石村大輔氏による趣旨説明がなされた。その後，以下 6 件の講演が行われた（敬称略）。講演の後，遠田晋次副会長による挨拶をもってシンポジウムを閉じた。

大森貴之（東京大学）「地質学的な時間解像度はどこまで高められるか？－放射性炭素年代研究の現状と限界性能への挑戦－」
三宅芙沙（名古屋大学）「宇宙線増加イベントとスパイクマッチング」
鈴木毅彦（東京都立大学）「火山灰編年学に関する最近の動向－層序・年代から検出・分析手法に関して－」
田村　亨（産業技術総合研究所）「変動地形と古地震研究への光ルミネセンス年代測定の活用」
金田平太郎（中央大学）・松四雄騎（京都大学）「宇宙線生成核種 Be-10 による断層変位段丘面の編年」
末岡　茂（日本原子力研究開発機構）「熱年代法を用いた断層運動と山地形成の関係に関する研究」

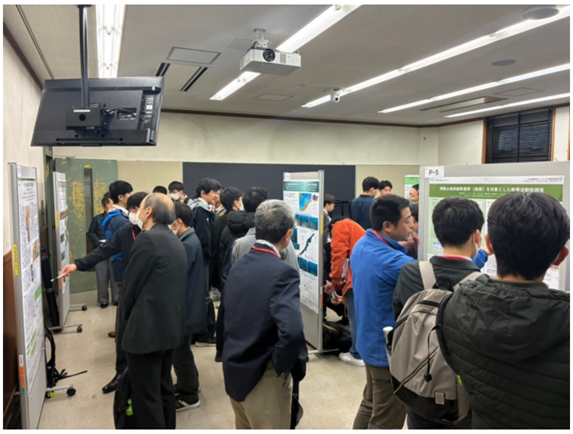
最後に，展示企業のみなさま，シンポジウム講演者のみなさま，学会事務局，関係委員会のみなさま，アルバイトを引き受けて頂いた東京都立大学の学生のみなさまには，大会開催・運営にお力添えを賜りました。深く感謝を申し上げます。

写真で振り返る 2025 年度活断層学会秋季学術大会

1）大会会場（南大沢キャンパス 1 号館）

2）開会あいさつ（堤　浩之会長）

3）一般研究発表・口頭発表


4）一般研究発表・ポスター発表

５）学術交流会　若手自己紹介（学生・院生）

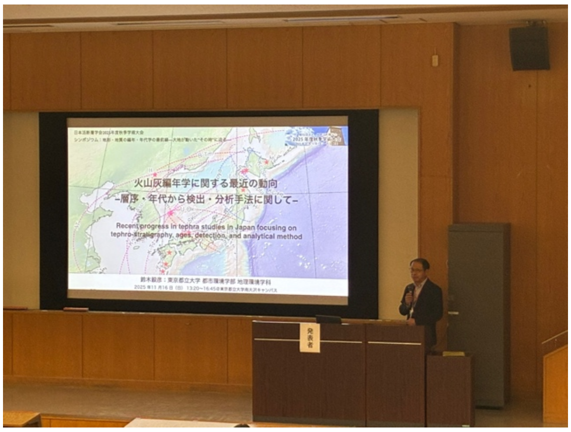
６）表彰式・学会賞の表彰

７）表彰式・論文賞の表彰

８）若手優秀講演賞受賞者

９）閉会あいさつ（遠田晋次副会長）

10）キャリア懇談会



11）シンポジウム・講演

12）シンポジウム・総合討論